



2015
L I M A
ANNUAL MEETINGS
WORLD BANK GROUP
INTERNATIONAL MONETARY FUND

Japanese
October 9, 2015

Address by **CHRISTINE LAGARDE**,
Chairman of the Executive Board and
Managing Director of the International Monetary Fund,
to the Board of Governors of the Fund,
at the Joint Annual Discussion

兄弟姉妹たちよ、すべきことは山とある

クリスティーヌ・ラガルド

国際通貨基金 専務理事

2015年 IMF・世界銀行年次総会本会議

2015年10月9日

はじめに

Presidente Humala, Presidente Bedoumra, Presidente Kim, Gobernadores, invitados de honor: Estoy encantada de estar aquí hoy y doy mi bienvenida a la Reuniones Anuales del Fondo Monetario Internacional y del Banco Mundial. ¡Bienvenidos!

Hablo en nombre de todos cuando agradezco al Gobierno y al pueblo del Perú por su gran hospitalidad. ¡Muchas gracias!

Hoy, Lima es la primera ciudad de América Latina sede de las Reuniones Anuales en casi cincuenta años. Esto confirma el dicho “las cosas buenas vienen a aquellos que esperan.”¹

年次総会の今年の開催地はリマです。ラテンアメリカでは約50年ぶりの開催ということになります。長い時間が過ぎましたが、同時にペルーは良く言われる「未来の国」ではなく「現在の国」であることを意味します。ペルーは、ここ数年でラテンアメリカで最も速いペースで成長している国のひとつであり、その大きな潜在力を解き放ち、全てのペルー国民のさらなる繁栄を築くチャンスを手にかけています。

もちろん、当然と考えるべきものはなにもありません。現在にあるということは、新たな大きな試練と制約に立ち向かうことを意味します。世界経済を覆う不確実性が、ここペルーを含む全ての国の政策担当者の心にのしかかっています。

我々は経済危機から脱しましたが、今は試練の時にあります。古い枠組みは既に有効ではなく、新たな経済関係が浮上しています。これは、チャンスと行動の時でもあります。

この精神をとらえたひとりがペルーの偉大な詩人、セサル・バジェホです。素晴らしいことに彼の最も有名な詩は確信に満ちた「意欲的」なメッセージで締めくくられています。

¹ ウマラ大統領、ベドゥムラ委員長、キム総裁、総務、そしてご列席の皆様。本日、このように皆様を IMF 世界銀行の年次総会にお迎えすることができ大変光栄です。ようこそ。

皆様を代表し、ペルー政府、そしてペルーの国民の皆様の歓待に心よりお礼申し上げます。

年次総会の今年の開催地はリマです。ラテンアメリカでは約50年ぶりの年次総会です。「待ち望んでいる人にこそ喜びがやってくる」という諺は本当です。

“*Hay, hermanos, muchísimo que hacer.*”

「兄弟たちよ、すべきことは山とある」

実際、兄弟たちよ、そして—*hermanas*—姉妹たちよ、すべきことは山とあるのです。本日我々は、この変化に対応する準備ができているということを世界に示すため、この新しく素晴らしいコンベンションセンターに集っているのです。まさに、対応することができるのです。

実際に過去に何度もそうしてきたように、こうした新たな試練に協力して立ち向かうことが、IMFと世界銀行、そしてその加盟国が存在する理由です。

本日は、世界の全体像が変化するなか、ラテンアメリカとそしてIMFがどのように変化し、こうした新たな試練に合わせ変わってきたかについて考えていきたいと思えます。

1. 世界の状況の変化

第一に、世界の状況ですが、不透明な転換期にあり様々な舵取りが行われています。

不確実性—世界経済の成長率は、今年は3.1%と昨年の3.4%より低下する見込みです。2016年には3.6%と僅かに加速するのみです。これにより不透明な状況となっています。また失業率と貧困に深く切り込みをいれるには極めて不十分な数字です。

転換—中国の新たな成長モデルへのシフトや米国で予想される金融政策のシフトなどを指します。

これら二つの転換は必要かつ健全ですが、貿易、為替相場、資産市場、さらには資本フローなどを通し他の国に影響を及ぼしています。我々が呼ぶところの波及効果です。一次産品からの収入に大きく依存している新興市場及び低所得国が特に大きな影響を受けるでしょう。

こうした不確実性と転換は大変な困難を伴うように見えるかもしれませんが—需要を支え金融の安定性を強化し構造改革を実施する適切な政策ミックスを用いることで—私は適切に対処することができるかと確信しています。これら全てが不可欠な舵取りです。

同時に、これだけでは十分ではないかもしれません。ですから、この年次総会において私は皆様に**政策のアップグレード**をお願いしているのです。

たとえば、先進国・地域の中央銀行は、その政策決定が及ぼす波及効果のリスクに十分に留意すべきです。新興市場国・地域は、企業のレバレッジと対外債務の蓄積に断固として対処すべきです。

さらに、TPPの最近の合意を足場に、世界貿易の失速してしまったエンジンを再び起動させることができると私は期待しています。

こうしたアップグレードにより、我々が現在直面している増大する不確実性への世界経済の強靭性を高めることができるでしょう。しかし、短期的な政策措置に焦点を当てると同時に、我々は世界の状況のより広範な変化に留意する必要があります。

例えを用いて考えてみましょう。ペルー南部の古代のナスカの地上絵は地上では幾つもの浅い溝のように見えます。空から見てはじめて、描かれている絵が見えてきます。皆様がご覧になっているスクリーンのハチドリ絵は、ペルーの文化にしっかりと根付いているとともに、我々の年次総会のシンボルでもあります。

これと同じように、我々の経済の未来、ひいては世界の何十億という人々の運命を形作る世界のナスカの地上絵を理解するためには、我々は広い視野に立たなければなりません。

明白なものも幾つかあります。そのひとつが**気候変動**で、全ての国がその影響をマクロ経済の枠組みに組みこむ必要があります。エネルギー価格の設定がカギです。IMFは、2015年のエネルギー補助金は世界で5.3兆ドルに達すると試算しています。GDPの6.5%にあたる驚くべき数字であり今後この数値を減らさなければなりません。明らかに状況を是正するためには、適切に価格を設定する必要があります。エネルギーが低価格な今こそ、補助金を撤廃する時です。

もうひとつのナスカの地上絵は**革新的なテクノロジー**です。合意された持続可能な開発目標（SDGs）の一環で、国際社会は2020年までに全ての人にインターネット・アクセスを提供すると公約しました。全ての人々が、オンラインで教育や保健情報、銀行口座などにアクセスできるようになることで、何を成し遂げることができるか想像してみてください。無限の可能性が広がります。我々の前にある挑戦はこれを実現することです。

もちろん、我々の心に現在あるナスカの地上絵は、**移住**です。戦火で破壊された国々からの難民の窮状に心が痛みます。この状況を打破するために今こそ行動を起こす必要があります。この問題でリーダーシップを発揮している人、そして実際に現地で昼夜支援に力を尽くしている人々に敬意を表します。

IMFも自らの役割を果たします。移民を生む国と移民を受け入れる国双方におけるこうした状況の経済的分析を行います。さらには、こうした圧力下にある加盟国に対し金融支援を行います。イラクとヨルダンには既に実行しました。

移住の問題に密接に関係しているもうひとつのナスカの地上絵は、**人口動態の変化**です。たとえば、中東では15歳～29歳が人口の3分の1を占めています。こうした若者の多くが、国を離れ職を探さねばならないと考えても不思議ではありません。

先進国・地域、特に欧州では、生産年齢人口が減少しています。有能な労働者の不足分を補うには、より多くの才能を海外から呼び込む必要があるかもしれません。

人口高齢化であれ人口の急拡大であれ、ひとつ明白なことがあります。すなわち、経済は変化していかなければならないということです。

有効な主な手段は—これは最近IMFの調査で確認されたことですが—より多くの女性が経済に参画することができるようにすること、つまり、**女性のエンパワーメント**です。労働力縮小の影響の緩和でも、中小企業の立ち上げによる雇用の創出でも、女性の経済への貢献を無視することはできません。

ジェンダーギャップの解消は、世界経済を大きく変えることができるでしょう。

未来を形作るもうひとつの主要な現象は、ここにいる皆様の多くが象徴している、**新興市場国・地域**のダイナミックな役割です。

これらの国々は、数年前、世界恐慌の再来の手前から世界経済を引き戻すことに貢献しました。これまで5年間にわたりこれらの国や地域が世界経済の成長の約80%を占めていました。現在、世界の産出量の半分以上が彼らによるものです。

新興市場国・地域の長期にわたる成功に反対するのは、最も気難しい悲観主義者だけでしょう。それでもやはり、新興市場国・地域が自ら認識しているように、現在の不確実性と波及効果の渦巻きに立ち向かうのは、決して容易ではないでしょう。

ラテンアメリカの変化が、この話のヒントになるはずです。

2. 変化するラテンアメリカ

ティファナからティエラ・デル・フエゴに至るまで、経済的、政治的、そして文化的に極めて多様な地域が広がっています。実際、この地域は多くの面で「汎用的」というラベルには収まりきらなくなった新興市場国・地域の多様性を表しています。

同時にラテンアメリカは、過去20年に我々が多くの新興市場国・地域で目撃してきたシフトを象徴する場所でもあります。

そのひとつがより堅固な政策枠組みの導入でした。これにより、多くの国が一次産品価格の値上がり、国際貿易のブーム、そして良好な世界の金融環境の便益を十分に受けることができました。

第2のシフトは世界金融危機の際に起こりました。政策担当者は、大胆な反景気循環的措置を採り対応しました。ラテンアメリカが、適切なことを適切なタイミングで行うことができることを証明しました。

その結果、大半の国で力強い成長と低インフレが実現するとともに、所得格差と貧困レベルが10年以上にもわたり大きく縮小するなど、社会面でも具体的な改善がられました。

その結果どうなったか。ラテンアメリカは皆様の *abuelo* の時代のラテンアメリカではありません。新たなラテンアメリカが誕生し、そして今、その新たなラテンアメリカが新たな試練に直面しているのです。

他の新興市場国・地域同様、ラテンアメリカはこれまでと比較し総じて風向きの変化により適切に対応できるようになっていることは良い知らせです。一方で、やはり他の国々と同じように、一次産品価格の下落や米国の金利の上昇の見通し、資本フローの激しい変動といったショックを和らげる能力が懸念材料になっているのは、あまり喜ばしくない知らせです。

ですから、政策や政策担当者への信認が重要になってくるのです。大半の国にとり政策枠組みの強化が優先事項です。そしてこれが試される時がくるでしょう。

つまり、責任ある財政政策を推進し拡大する公的債務を持続可能な軌道に再び乗せることを意味します。賢明な金融政策を用い、巨額の経常収支赤字を削減することを意味します。

しかしこれでは十分でないかもしれません。主要法人のレバレッジと対外債務の蓄積に対処することで、「政策をアップグレードする」ということを先にお話いたしました。こうした外貨へのエクスポージャーを監視することが重要であり、銀行の強靱性の強化もやはり重要です。これは、下振れリスクの緩和と金融の安定性の強化に資するでしょう。

ラテンアメリカの大半の国は、経済の多角化、成長の促進、そして国民ひとりひとりの潜在能力を完全に解放するために構造改革を推進する必要があります。

どのようにすれば実現できるのでしょうか。

第一に、包摂性の向上です。ラテンアメリカは近年で大きく進展しましたが、世界で最も格差が大きい地域であることに変わりありません。IMFは、過度の格差の是正は、社会政策的に健全であるのみならず経済政策としても健全であると論じてきました。我々の調査により、最も貧しい層20%の所得シェアが1パーセントポイント上昇することで、成長率を約0.4パーセントポイント引き上げることができることがわかっています。

なかでもラテンアメリカの先住民の大きな潜在的な力を示す例を考えてみたいと思います。私は前回のペルー訪問の際に、マクシミリアナ・タコというひとりの女性に会いました。アヤクーチョの小さな村に住む彼女は厳しい生活を送っています。しかし、政府の「Haku Wiñay（積極的な小規模農場事業）」というプログラムにより、どのように今自らの土地を耕し生計を立て、どれほど経済の知識を蓄え、そして自らに教育を積んでいるかについて話をしてくれました。

マクシミリアナのような人が何百万人もいます。その潜在能力を解き放つ時を待っているのです。

天然資源は、もうひとつの重要な資産であり、適切に管理するならば、ラテンアメリカを未来の世代のために変えることができるかもしれません。しかし、影響を受けるコミュニティのニーズ、彼らの文化や尊厳が軽視されるケースが極めて多くあります。余りにも頻繁に法の原則が無視されています。そして、透明性やガバナンスが極めて弱いケースが多々見られます。これを変えなければなりません。

私がお話をしたい大きな潜在力を秘めている最後の分野は、**インフラ投資**です。**IMF**ペルー学生エッセイコンテストの受賞者であるマウリシオ・トングというここペルーのパシフィコ大学の23歳の学生についてお話ししましょう。

マウリシオが母国について述べていることは、ラテンアメリカ全土にも言えることです。

「2025年には、私の国は優れた地上交通システムでつながっていることでしょう。かつてインカの道がそうであったように、便利で競争力に富み国際的に優れたシステムです。私には、海で釣れた魚が山あいの家庭の食卓に上がっている様子が見えます。遠く離れたコミュニティの学校には正規の教師がいて、病院には医療のスペシャリストがいます。こうしたことで、発展し成長し、ひとつにつながっている私の国が見えます」

ラテンアメリカが転機にあるなか、マウリシオは我々に、地域の全ての潜在的な力を発揮させるという彼の夢を実現するよう訴えかけています。

Hay, hermanos y hermanas, muchísimo que hacer.²

3. 変化する IMF

ここまで、新たな世界の全体像とラテンアメリカを含めた全世界が感じている風向きの変化についてお話ししてきました。ひとつ明らかなこと。それは、経済の波及

² 「兄弟姉妹たちよ、すべきことは山とある」

効果から気候変動まで我々が直面している試練も新しくかつ複雑だということです。自国のみで対処できる国はひとつもありません。協力がカギです。

私はこれまで「新たな多国間主義」の必要性についてお話をしてきました。国際機関の再活性化とともに、市民社会グループ、シンクタンク、労働組合といった新たなより紐を組み合わせた一段と力強くダイナミックな布を織るためのものです。

IMFはこの新たな多国間主義の中心にあります。ここで本日最後のトピックであるIMFの変化について考えてみたいと思います。

ラテンアメリカは、皆様の「*abuelo's*」おじいさんのラテンアメリカと異なります。実は、IMFも皆様の*abuela*の頃のIMFとは異なるのです。

最近数年間でIMFはダイナミックな変化を遂げました。我々マネジメントチームとして私は、この取り組みに対する皆様の支援に深く感謝しております。

私は、今後IMFは、188加盟国のニーズにこれまで以上に適切に対処できるさらに力強い組織になると考えています。このビジョンは機敏性、一体化、加盟国を中心とする、という三つの目標の上に成り立っています。

これらの英語の頭文字を合わせ便宜上「AIM（目標）」と呼びます。

第一に、機敏性を高めるです。今年はじめにIMFは、エボラ出血熱の被害を受けた国々に対し、4億ドル以上に上る債務救済と金融支援を迅速に行いました。革新的なアプローチの結果、我々は、この極めて深刻な災害に立ち向かうこれらの国々に「銀行にある現金」をすばやく提供することができました。

この機敏性のもうひとつの例が、我々のSDGsへの支援です。全ての譲許的融資へのアクセスを50%拡大したのみならず、大きなショックや災害に見舞われた国々にゼロ金利融資を継続しています。

我々はこの新たな機敏性をIMFに深く染み込ませるために様々な措置をとっています。今後の試練に立ち向かう用意が整っていることをお約束いたします。これからは「これは従来のやり方とは異なる」ではなく「どのようにして皆様とともにそれを追求いけるだろうか」という言葉が聞かれるようになるでしょう。

第二に、より一体化したIMFです。これはどういう意味でしょうか。マクロ金融の連関性や国境を越える波及効果の点と点をつなぎ合わせるということです。我々はこれから作成するたとえば、対メキシコ、ブラジル、カナダの4条協議の報告書で、マクロ金融をより重視することになります。そしてこれは出発点でしかありません。

さらに、世界の運命を形作るナスカの地上絵でより多くの作業を進めていきます。ですから私は、金融包摂、不平等、ジェンダー、そして気候変動という問題を一段と重視することにコミットしているのです。我々はこれらの問題のマクロ上重要な側面に焦点を絞ります。これにより、世界銀行のようなパートナー機関の活動を補完することができるようになるでしょう。

第三に、私は一段と加盟国を中心とした IMF の実現を願っています。その良い例が能力開発です。直近 6 カ月だけで、我々は 125 カ国を支援してきました。我々の研修と技術支援をより効果的に提供することができるよう、我々はオンラインツールの対象を拡大しています。

同時に、特に低所得加盟国へのサービスを一段と重視していきます。貧困と戦い持続可能な成長を推進するうえで極めて重要な歳入の確保の改善などです。

そして、全ての加盟国がベストプラクティス（最善慣行）へ一段と容易にアクセスできるよう、知識管理の強化に努めます。

我々の「AIM」－機敏性を高め一体化をさらに進め一段と加盟国を中心とする IMF－これは決して容易ではありません。しかし協力により、我々はこれを成し遂げることができ、そして成し遂げるのだと確信しております。

なぜ私はこれほどまでに確信しているのか。なぜならば、我々にはこれまでに数え切れないほどの試練に立ち向かってきた素晴らしい、まさにベストともいえるスタッフがいます。彼らは、再び難題に挑む用意が、そして今まで以上により良い結果を導き出す準備ができています。

総務の皆様、IMF で皆様の国を代表する理事に敬意を表します。理事はひとつになり我々全ての加盟国の多くの知恵を集めこの組織の運営にあたっています。

共に取り組むべき課題があり、共に取り組む用意ができています。共に成し遂げることができるのです。

最後に

最後に、本日我々と共にここに集う若者をご紹介しますと思います。

先ほど、そのペルーへの夢で我々を鼓舞したマウリシオです。私の後ろの感動的な写真をご覧ください。写真コンテストの受賞作であるラモン・マルチネスによる「朝日に微笑む」と、ホアン・パブロ・トロソスの「人生に微笑む」です。

彼らの言葉、彼らの芸術を通し、若者たちがその未来への自信を表現しています。ペルーへの、ラテンアメリカへのそして世界の未来への彼らの自信が、我々を力づけてくれます。

兄弟姉妹よ、*hermanos y hermanas*、共にそれを必ず成し遂げることができるのです。

皆様に感謝し、彼らに感謝しこのスピーチを締めくくりたいと思います。

全てのファイナリストの皆さん、どうぞご起立ください。

Muchas gracias.

ご清聴ありがとうございました。